

令和3年9月27日

## 校長あいさつ（放送）

愛龍生のみなさん、おはようございます。校長の倉持です。

先週から分散登校による短縮6時間授業が始まり、徐々に通常の学校生活に戻りつつあります。2か月以上にもわたって「学びの機会」が損なわれる状況が続きましたが、ようやく、今日から全校生徒が集まり、共同の学びの場がスタートします。コロナ感染者数が減っているとはいえ、自宅療養者や重傷者の数はいまだ高い状況にあります。感染予防にはこれまで以上に注意を払いながら集団生活をしていく必要があります。

さて、学校生活の二学期というのは、行事や実習など、一学期にはない教育活動が活発になっていろいろな学びを深めていく時期なのですが、今回はスタートが遅れた関係でいろいろな面で変更が生じています。学校としては、やるべきことの優先順位を考えながら、生徒の皆さんの満足度が高められるよう教育活動を着実に前に進めていきます。

緊急事態宣言は解除されても、コロナの影響は学校生活や家庭生活全般に及び続けるでしょうが、その中で起こる変更や変化に対して、私たちは今まで以上に上手く対応していかなければならないこととなります。

具体的には、これまで慣れ親しんできた、または、いつも通りにやってきた方法や順番に変更や変化が生じる場合がありますが、その時は、その状況を理解して、その変更や変化を自分なりに受け入れて行動しなければならないこととなります。

例えば、今週の学校の日課は、9月30日までは1時間遅れの短縮6時間授業ですが、金曜日の10月1日からは、8：30朝礼の通常日課になります。学校生活のリズムがその日を境に変わります。これはとても小さな変化ですが、生活リズムが乱れるということもあります。しかし、その対処方法はあります。それは、前もって準備しておくことです。つまり、あらかじめ、その状況を理解して、こうなるだろうと予想しておくことで、上手く受け入れることができます。

新しい変化や環境に対しては、自分なりにその状況を理解したうえで、自ら判断して行動することが大切になります。

学校生活についていえば、二学期から三学期にかけては、授業や学校行事などの教育活動の進め方がこれまでとは異なることがあると思います。授業については、先日 ICT の授業を経験したように、これまでの教科書と黒板を中心にした授業ではなく、多様性と応用性を生かした授業展開になっていくでしょう。

しかし、どんな時でも一番重要になるのは、やるべきことを積極的に受け入れる気持ち、つまり、**自分のやるべきことを最後までやりきる「決意」、もしくは「覚悟」**です。学生の皆さんにとっては**「学ぶ意欲」**ということになります。

この**「学ぶ意欲」**こそが皆さんを**「成長」**させる原動力になるのだということをもう一度、改めて皆さんに伝えたいと思います。**自分のやるべきことを最後まであきらめずにやりきることが自分を大きく成長させることに必ずつながります。**

愛龍生の皆さん、**「学ぶ意欲」**を強く持ち続けて自分を大きく**「成長」**させてください。これが今日の校長メッセージです。ありがとうございました。